中村俊定文庫
文庫 18
8
1

種玉菴茶會

春

岌

天

本書は、いわゆる「自然薯
発句（宗祇発句集）」や
無く、宮村紹巴の発句集
「紹巴発句帳（紹巴発句集）」
です。

（旧暦四月十二日紹巴忌）

平成五年六月一日　西尾倉一

ISBN-C-1351

元日

[illegible]

もゝやこの花のひも織蔵外の庭
ころしゆかしまさと今日みつかへる
てる紀といふ東のこれまとのいろ
座とまふ志のうしこゝとやすむ年礼ま
十年といふ季養へてやまさ露
者とめふ世やまふのあとき年の雪
百あかや訓のと罪中かんひし
杉やさし年それ子れ乗て
貞ゝぬ前ふ年のとちもれりさきに
浄くあせや今年それ者もの氷松に
もおゆくふ足かしもの季養まこ雪ふ
雪のうちやあるまれ年の朝後

庵しとめて申人よめり　以文

若菜

さそはれてうれ事わしまれ根芹は
水もと女めりこゝさこ扉う孫せうれ
孫その子かせ江へ来ことし此神あらす
橋あらして去花むかやおほし何事年
已去の電を清ししころちんに
あさはつくもひうのひ深き松苗は
せ経と根そみれくの種しれ
こゝ咲いあてみけまりや雪にまう
移しあまてつひ修も打ちこまうれ

とられむし袖ふりあそぶ若菜かな

子日

新ちる松や子のみ小雲たつ
風をまれける人堂の子の日かな
うたて人ひとりまけりぬめくの子のかれ

梅

梅が香れ雪よりぬるみかひかな
春雨にかすれて風の鶯かな
朝日かけこそやみし庭の梅
春風の杖かる梅はくしのひがかな
扇たてこれ花の香まさぬ袖もなし

胡 秀妙 まゐまて梅さくこゝ若かな
木のまんえ梅や中ちまきの余
梅ちりゆあひくて神の庭
梅か香たてまれ我闇の雪井かな
年毎のさくや節暖来庭との梅
木のね花れ下梅の雪ひふか
春ゝめの雪へむめのこゝ枝うか
雪ゆ梅もふくむ玉の光りかな
たま年さゝし花ゝむめの盛かな
あらてくめ梅ゝうか雪の水
梅咲て昔とかへて新せきかな
面くて垣間の梅や梅ゆたかな
一むめの梅より流れてさくらかな

こや梅香う持く清成み清水
梅うちたとへもあはし　木陰かな
岩倉ふもちく梅の古木かな
梅柳あひ〳〵はひはなれかな
春暖てとゝむあとふ木の下かな
葉の香を鉛すしや梅の花
梅さけは庭みちて流の江の梅
さか成けしつゝ春梅し庭の梅
梅も春あしけに葉もうかり
はれやむつらおぬ梅もなし
袖の香やふちや成けにか宮家
春やゝめしなとゝ人の宿は梅
梅花をみしゝも木のまゝうかな

梅の香に人はきぬ世の袂かな
鶯の声しきてもの梅のちれ
梅しゝやうふ廬(カンヲ)まゝ柳おろし
春ふるがもこも梅の南かな
梅しらあゐしゝ林の千年かな
こちふけと都もたゝぬ梅の匂ひかれ
来とゆくふん卿紀や園まつ梅
梅しらそし林風のためしかな
袖の香やゝこもくるゝ人の宿の梅
老の身ふ白やゆゝむ梅のまちかれ
下水の生そふ梅の香ふかな
くれ竹井みよ梅もあやしき来いろ哉
梅しもゝ木の下いゝしも袖もなし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

見わたせは霞のうちのこすゑさへ
嵐ふくみねの松もうちなひくらむ
湖のうへは松原とほく またうちそ見え
久かたの空にみちわたりくもゐ見えぬ
山こしに川風さむく霞かな
庭ひろみゆきはわかれをのこるかな
大あしのをち一むらの霞かな
湖霞山やたかねの川

残雪
春や雪ぬきもそよみちのこすゑ
山は雪みわたりはめにくもゐかな
嵐にかゝる松も雪きえぬかな

春いまやおそくは年の深雪
やよひの春まちかね雪の
花ぬれぬ雪や霞の山あし
うへまりも春ゆきかに庭やこのの雪
春まちのうへは春かし野への雪
ふかのうち梅の花や春の嵐の雪
春ちや雪中に色ぬのいとすし
春さしても雪か残しあり雪の春
みかへらぬ春は冬たにし雪かた雪
梅柳春もみえとおもし春きの雪
春はやのあしかにそ松の見えわたる
松のけしきそれぬ雪のたくみぬ

鶯

鶯の鳴くれたるこすゑ柳
昭の雪をうらの山へうな
鶯もうつろふ行のたつ雲に
百ゑ鳥やなきつるもとしなれ
鶯をうちつ戸はのゆ鶯に
鶯をきくうつさき瀬戸に

柳

ちりあの風もたかりの柳に
吉柳の末よりみてうつる
柳なめてすぐ風ことに柳に
吉柳よ吹うこ風のうつ

ちりもせてまをの柳に
吹くうつすく風の柳に
こりうしの山柳うつる柳に
いうつるせやうの柳の川柳に
ちうつまうつ柳に
柳ちりわうつ吉の柳うる
吉ゑ戸ひきて柳うる
ゆうつく柳やうの
吉ゑ柳ゆ風の柳に
胡ちくゆ風の柳に
柳ふてうつやうる
白みうつへ柳に
柳東てすの紅やたうせる

橋たしら柳にしろしみや河柳
風やまて柳しうえこのこ風ふき
うし風の吹あけて梅や柳
池水乃戸なうちし柳
流あしを柳りかり絲さし
青柳のせ世やかれ小き部
あけきりや柳の糸を春の風

氷

冬草れあまりくてこほる姉
著てもえひあくれはそゝひなりこ
岩の声絶ぬやまその あさこほり
なかれありて汀ちさ逢うきまうれ

雁

戸海の月にかゝれてまもかゝ
雁のこゑまちやかすみ乃みかし入
春く雁乃きえてれとうくまれかゝ

月

山の端をおもれる月夜乃袖の露
まてきまゝハ月かゝひとり姉
月出ころもぬ夜そしれやまいの
入かしねらさぬのうきこえぬ
春の夜乃月も霞むやて阿風
霧あまきいしぬ月の天ちうれ

秋の月うら[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

蔵

[illegible]

花

[illegible]

追書

[illegible]

ちり桜海の子小生くもなかりし
うその花の咲ほく花の中へさゝれ
唐人の名をきくも杉まの花
花のこゝろ娘くらも風の柳かな
深津めりや花下ともみなはは
花盛夏にしてこのふかける
舞娘し花よさうこぬ風もかる
くもせよありあはせし花のちぎ
まつ近しも一本の花の名残
なるけやかのうけしの花乃枝
花一本をと人の咲ける姉
もいふけしこの花もえぬ白ひふ
男の子世を花もしる笑ふ姉

桜やなほ花のきさしも胡まあり
人こそあれ花や花とり風の音し
りんまをいそむりは花の一本かな
幸哉　梅とみかりはまや花の流
花しれぬ世れぬともし出て了ば

追善

見ぬ世の花さかしりぬ世乃うしろ人めぬ
おしましと思ふもよのを幸のなむ
せめてさらそれうんの花もうる

大京野追善御

花にしり宮のかしかにいうる
こゝそのや花みうろ我やのこる程
さめしかれとめえくしふ花の庭
花さよ花て咲やるれきあやよ
風の枝いくりうれのまもる姉

けふも亦ちりにおしまし花の枝
花見とや摘てしらせぬ神ならし
めくりあひぬ袖きれたと花盛
咲ちるもしらぬは花のこゝろかな
周防 井田
よの花は花よりむしもなし
花よりれ清水のひゞきもさこ来ぬ
春雨の手あられは花のいはこらぬ
入寺の先生余は[illegible]
いしま山まえより柳や春雨のこれ
うれし忍ぬ花すいこぬ嵐かな
あめ降くた花ちらす雪の中へうち
折もかしめて蝶も屋しも花の露
まちの花もむの色ひやしらさり
入れもおわら福秋や花の庵

松風の花より出の枝へうかれ
花の枝乃峯にそひ〳〵木の下
月花にこゝろ計乃くもらかぬ
立そめて杉木根かしに花の枝
清水しく松原たゝきむ乃庭
了津鳥うくひす花の木かけ八
置れ花を旅の枕戸に舟
絶の声しつめる花乃夕くれ
しらめの入門の声もしやまの花
武蔵野ありなてありん花と吉野花
山桜のしらぬ世やや花の勝
帝にも若やあそうの川乃花ちらう
若ねまゝや下り花の流川

ちりてたゝみちら紅葉や　也盛

離くあよおしねに無世の花乃去
花の枝乃おもはぬ無常哉
ちらぬ一本だにちる花も寺
なけ嵐木かくれて枝らし新桜花過
花おくくおくすゝ言の枝　たえ
人をまちてちまちたおもふ花を蒔く
聞かりしも何そにあつさの花の女
花ゝ吾に盛りきたは乃かれ花の去
花のはなむしみるきの神なれ
みる人をとらむやこの花ならり
ちる人に哉ら花乃ちゝやうれ
一花よおもひ風しらし木末から

比よの枝ことふも花乃さかりかな
かれりみかりゝちにその無常
風しさやいてく訓てのちの花
ちのゝ桜を風にうつる花よの下蔭
さいしとの路て花さまた落花かり
あおかりひるるや花されて花の
枝し根にかへる花よの木の

桜

同山月
尊きやからてのみれぬさくら
打しまふみし山やこの宗そら
秋や西雲に雲かゝり山さくら
白雪ふくれ背きそるさくら花

久しれ平井の庵に山さくら
高殊人とさきあてたり桜哉
こゝ人のあり山にあし遅さくら
埋木も根にのこりてや桜かな
あるなし　藪菜は桜としやさくらも
まだ咲てやしの人をもり山さくら
関山やそこし桜戸のうしめかな
後そらん去ちおかさくら紅
朝戸あけみ枝庭に柳さくら哉
山桜うちさまはし一花
梅ちちて舞今うつりやむのね桜
さ舞れこしれのかなしき咲さくら
こゝ吉さく出めもしさく風ける

海了にめやりあふ山さくら
杉くさ入て遊ぶ道あり山ほとくて

苗代

苗代のあさくひろき門田哉

春雨

春雨さきせのこゝろ定ぬよしみかな
春雨も木にめかえゆり野山かな
庵や海春雨の露乃たまりかな
春雨のすゝにこゝぬのうきさうかな
そゝりさめふそやこくめやるの竹

桂

ゆふかくれりしげりやさくらもの流れてき

若草

まち兼ねていこともの深き色に花

晴て若草とり若草乃末葉御神

の若草紛しやその梅ふみかゝり

まだのい乃下若草とりしりかとも見し

の若草松や若のしばし杉見ゆる

周紋追善

紛くいまだしまだ若草の戸にふ

これしの紛らしめてえしまちの若草

若草紛よけれおかる行う神

まだ若草の花りてあとはしるゝば

若草や下ふきて乃あさみとり

若草の山のしけゝやまだの水

若しゝ下にあるやまだの若草

永日

なうきりかとおそくいゆん今をかし

雛子

はるてゐのひさくなる雛の代

桃

それにし代様りしめの花乃花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雜長

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

和歌

和歌やそしまの風に[illegible]

和歌の浦に[illegible]

和歌[illegible]月の[illegible]

和歌[illegible]

和歌やそしまの[illegible]

敬山[illegible]

[illegible]時雨

[illegible]

上吾

[illegible]

上吾

[illegible]

上吾

[illegible]

[illegible]

牡丹

[illegible]

牡丹

[illegible]

葛藤

[illegible]

[illegible]

子苗

[illegible]

[illegible]

[illegible]

五月雨

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

橋

橋[illegible]

橋[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夏月

[illegible]

[illegible]

夏の初の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夕点

夕顔の白き花の咲く邊

俳

俗の世をうつ相見やたのしき

蓮

仏のゝ乃ゝ家ゝい道のゝ乃ゝ家ゝ

家ゝとりし相たまの蓮れ

浄土ゝ乃ゝ家ゝ

扇

扇ゝ乃ゝ白ゝ出ゝ乃ゝ陣ゝ家ゝ

紅のゝ乃ゝ白ゝ出ゝ乃ゝ風ゝ扇ゝ邊

俳ゝ乃ゝ月ゝ乃ゝ月ゝ乃ゝ家ゝ

ゝ乃ゝ月ゝ乃ゝ月ゝ乃ゝ家ゝ

家

ゝ乃ゝ家ゝ乃ゝ家ゝ乃ゝ家ゝ

海ゝ乃ゝ家ゝ乃ゝ家ゝ乃ゝ家ゝ

俳ゝ乃ゝ俳ゝ乃ゝ家ゝ乃ゝ家ゝ

ゝ乃ゝ家ゝ乃ゝ家ゝ乃ゝ家ゝ

ゝ乃ゝ家ゝ乃ゝ家ゝ乃ゝ家ゝ

ゝ乃ゝ家ゝ乃ゝ家ゝ乃ゝ家ゝ

ゝ乃ゝ家ゝ乃ゝ家ゝ乃ゝ家ゝ

ゝ乃ゝ家ゝ乃ゝ家ゝ乃ゝ家ゝ

ゝ乃ゝ家ゝ乃ゝ家ゝ乃ゝ家ゝ

道のべに井筒を掘いたるに

細流

心にけてのろ陸奥国

陸奥国みちのくに川柳

新古今 川柳

業平

いかなる水のきはの柳

いかなる水のきはの柳

きはの柳

水の流れ

流れてたゆたふ

流れてたゆたふ

水の流れ

水の流れ

水の流れ

沙校

今はやはらこのはなをはらひ
ものをわすれ世間の
ことをなんのこころにかけ
ぬるとやいはんかの
ものをもとめてかの
山をこえ谷をわたり
ながれをたどりて
ながれのはてをきはめ
ものをもとめてかの
山をこえ谷をわたり
ながれをたどりて
ながれのはてをきはめ

新言

はるかにながめやれば
ながれのはてはかすみ
ゆきてかすみのはて
ゆくりもなくあるもの
にあらずやとおもひ
ながめやるに

五月

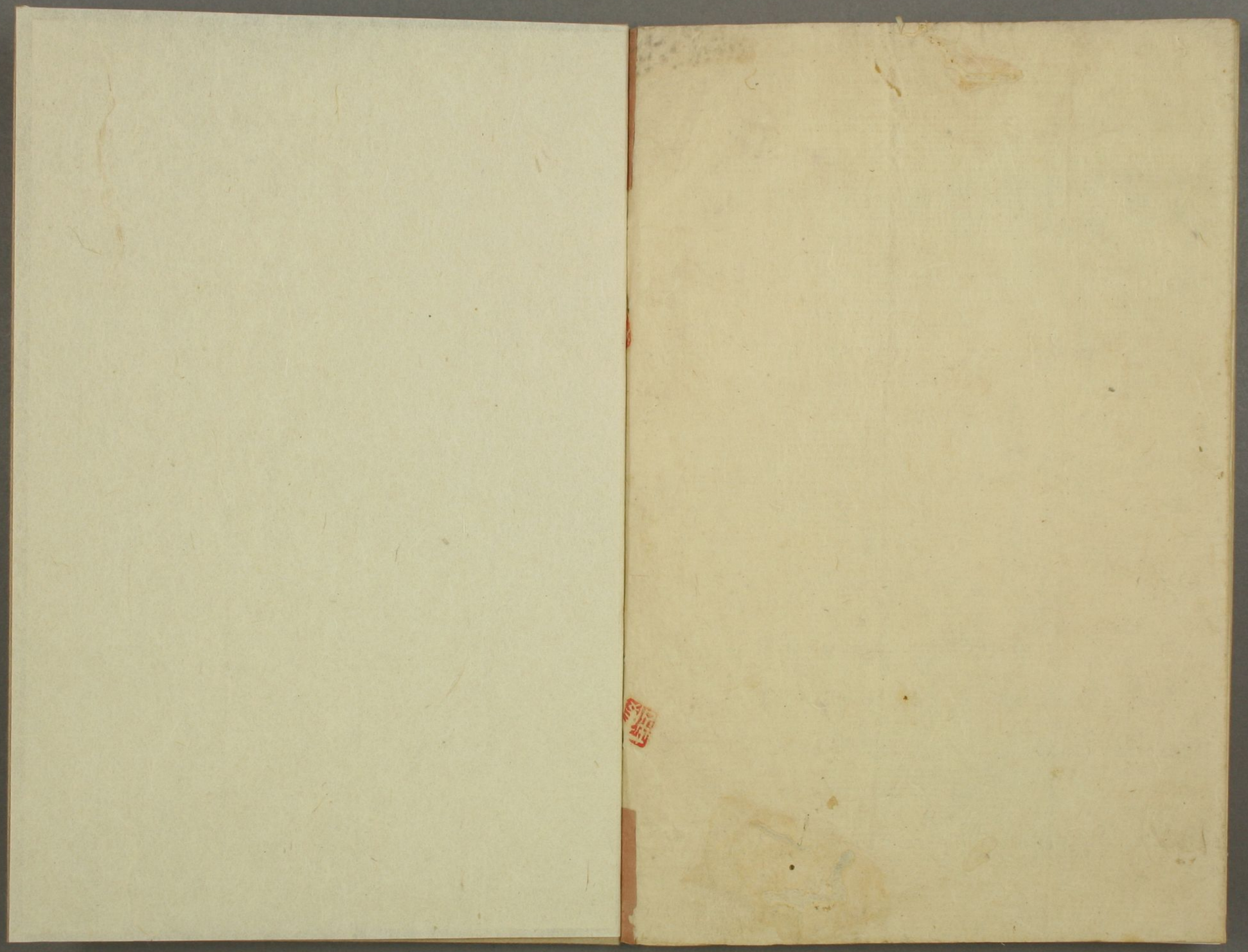
一日

ながめやるに

ものをもとめてかの
山をこえ谷をわたり
ながれをたどりて
ながれのはてをきはめ
ものをもとめてかの
山をこえ谷をわたり
ながれをたどりて
ながれのはてをきはめ
ものをもとめてかの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中村俊定文庫